

令和2年12月24日



名古屋港管理組合

令和2年名古屋港港湾統計年推計
令和2年名古屋港10大ニュース

記者会見資料について

本日、会見発表しました標記の件につき、資料をお送りいたします。

(この紙を含めず14枚)

お問い合わせ先

港湾統計年推計

企画調整室統計センター (担当: 長谷川・久米)

TEL 052-654-8019

10大ニュース

総務部広報・にぎわい振興担当 (担当: 小島・江口)

TEL 052-654-7957

令和2年名古屋港港湾統計年推計

入港船舶		令和2年年推計値	令和元年実績	前年比(%)
総 数	隻数(隻)	28,700	32,576	88.1
	総トン数 (千総トン)	213,000	233,714	91.1

取扱貨物量		令和2年年推計値	令和元年実績	前年比(%)
総取扱貨物量 (千トン)		168,000	194,436	86.4
内 訳	外貿貨物	107,000	126,377	84.7
	内貿貨物	61,000	68,059	89.6
コンテナ総取扱個数 (千TEU)		2,440	2,844	85.8
内 訳	外貿コンテナ	2,290	2,649	86.4
	内貿コンテナ	150	195	76.9

令和元年までの最高記録

入港船舶隻数	72,521 隻	昭和44年
船舶総トン数	241,783,906 トン	平成19年
総取扱貨物量	218,130,496 トン	平成20年
外貿貨物量	140,611,794 トン	平成25年
内貿貨物量	80,685,587 トン	平成19年
コンテナ総取扱個数	2,896,221 TEU	平成19年
コンテナ個数(外貿)	2,699,626 TEU	平成30年
コンテナ個数(内貿)	257,774 TEU	平成19年

※ 内貿コンテナは平成10年より集計開始

問合せ先
名古屋港管理組合企画調整室統計センター
担当:長谷川、久米(TEL:654-8019<内線2923>)

令和2年名古屋港港湾統計年推計

令和2年名古屋港港湾統計の年推計は以下のとおりとなりました。

入港船舶の総数は、外航船で自動車専用船等が減少し、内航船で一般貨物船等が減少したことにより、隻数は2万8,700隻（前年比11.9%減）と減少し、総トン数は、外航船で、自動車専用船等が減少し、内航船で客船等が減少したことにより2億1,300万総トン（同8.9%減）となる見込みです。

総取扱貨物量は、全体では1億6,800万トン（同13.6%減）となり、19年連続で日本一を堅持する見込みです。このうち外貿貨物は、輸出で完成自動車等が減少し、輸入で原油等が減少したことにより1億700万トン（同15.3%減）となる見込みです。内貿貨物は、完成自動車等が移出入で減少したことにより6,100万トン（同10.4%減）となる見込みです。

また、外貿コンテナ取扱個数については、229万TEU（前年比13.6%減）となり、昨年同様全国第3位となる見込みです。

令和2年（2020年）名古屋港10大ニュース

【総合】

- ◎ **新型コロナウイルス感染症への対応**
～関係機関と連携強化、事業者への緊急経営支援策を実施～

【物流関連】

- ◎ **総取扱貨物量19年連続日本一へ**
- ◎ **港湾物流情報の電子化の取組と水素等の次世代エネルギー施策の議論スタート**
- ◎ **コンテナ及び完成自動車取扱機能の強化**
～い頭再編改良事業等進捗図る～

【防災・危機管理関連】

- ◎ **大規模災害に備え、ハード・ソフト対策を強化**
～港湾施設への防護柵の設置、関係者との協定締結等～
- ◎ **ヒアリ対策への継続した取組**
～1000個体以上のヒアリ・卵を確認、徹底した駆除を行い定着防止対策を実施～

【親しまれる港づくり関連】

- ◎ **名古屋港水族館、臨時休館を経て再スタート**
～支援を募る取組、同館生まれのアカウミガメから子ガメ誕生～
- ◎ **国内クルーズ船11か月ぶり入港再開**
～コロナ対策徹底、ガーデンい頭屋根付き通路完成～
- ◎ **海の日名古屋みなと祭、花火大会含め初めて全行事を中止**
～対策を講じ徐々にイベント等を実施～

【国際交流関連】

- ◎ **ロサンゼルス港と覚書締結**
～姉妹港提携60周年を機に、両港で協力関係を確認～

新型コロナウイルス感染症への対応

～ 関係機関と連携強化、事業者への緊急経営支援策を実施 ～

今年に入り世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症への対応として、名古屋港管理組合では様々な取組を行ってきた。

港湾管理者としては、感染症の対策として、水際対策の強化が重要であると認識している。入港する外航船舶において感染症が疑われる乗員が発生した場合、検疫所による臨船検疫等の実施後、検疫所が当該乗員を医療機関へ搬送するための岸壁提供など必要な協力を行うこととしている。

また、国や愛知県等の情報収集に努め、名古屋港保安委員会（関係行政機関・関係団体等の35機関で構成）を通じ、関係者に情報提供し共有するとともに、検疫所等の関係機関と連携している。さらに感染症に係る対策を迅速かつ的確に全庁体制で推進するため、「名古屋港管理組合新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、適時必要な対応を図る体制で臨んでいる。

本組合職員への感染拡大防止対策として、3密の回避、新しい生活様式の励行とともに、早出遅出勤務、休憩時間の時差取得、テレワーク環境の整備を進め在宅勤務も実施している。

一方、感染症の拡大により影響を受けた事業者への緊急経営支援策として、名古屋港を利用する全ての事業者を対象に、令和2年4月から令和3年3月分の港湾施設使用料等の支払いを猶予している。

総取扱貨物量19年連続日本一へ

令和2年の名古屋港港湾統計の推計値がこのほどまとまった。

総取扱貨物量は、1億6,800万トンと、19年連続で日本一を堅持する見込みとなった。

また、外貿コンテナ取扱個数は、229万TEUとなり、全国第3位の見込みとなった。

外貿貨物では輸出で完成自動車等が減少し、輸入で原油等が減少し、前年より減少となる見込み。

貨物の内訳では、背後地域の産業構成を反映して、完成自動車、自動車部品、産業機械の輸出と、LNG、鉄鉱石、原油、石炭などの産業及び暮らしを支える原材料の輸入が大ききなウエイトを占める。

取扱貨物量	令和2年推計値	令和元年実績	前年比 (%)
総取扱貨物量 (千トン)	168,000	194,436	86.4
外貿コンテナ取扱個数 (千TEU)	2,290	2,649	86.4

港湾物流情報の電子化の取組と 水素等の次世代エネルギー施策の議論スタート

港湾物流情報に関する電子化については、国において電子化の取組として全国統一のデータ基盤「港湾関連データ連携基盤」のシステム構築を進めている。

こうした中、名古屋港では港湾関係者が主導する形で、全コンテナターミナルを一元管理する名古屋港統一ターミナルシステム（NUTS）等の情報化システムの整備が進められている。

名古屋港管理組合は港湾管理者として、国の電子化の取組や現状で電子化が進んでいない物流事業者との対応など、関係する事業者の意見、意向を確認しながら適切に取り組んでいく。

また、12月には、国土交通省港湾局から、本港において、カーボンニュートラルレポート（CNP）※検討会が開催されることが公表された。その検討会において、中部地方整備局、本組合、民間企業等とともに、本港で展開する水素等の次世代エネルギーに関する施策について議論していく。

本組合としても、来年度、本港における水素エネルギーの受入・供給・生産・利用などの物流面・産業面を総合的にとらえた水素戦略を取りまとめていく。

※ カーボンニュートラルレポート（CNP）…水素、アンモニア等の次世代エネルギーの大量輸入や貯蔵、利活用等を図るとともに、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする港湾のこと。CNPの形成により、水素等を活用した我が国全体の脱炭素化社会の実現に貢献していくものである。

コンテナ及び完成自動車取扱機能の強化

～ ふ頭再編改良事業等進捗図る ～

名古屋港では、国際競争力を維持、強化していくため、物流の更なる機能強化に取り組んでいる。

飛島ふ頭では、ふ頭再編改良事業として、飛島ふ頭東側のNCBコンテナターミナル2バースのうち、R1岸壁の耐震化及び水深を12mから15mに増深する工事を平成29年度から国が実施しており、今年度から本体工（鋼管杭打設）に着手している。岸壁整備に併せて名古屋四日市国際港湾㈱は、ガントリークレーンの更新も進めており、今年8月、22列対応ガントリークレーン2基の製造・設置工事の契約を行った。

また、飛島ふ頭南コンテナターミナルでは名古屋四日市国際港湾㈱により、平成29年度から行ってきた20列対応のガントリークレーンの1基増設、3基更新が完了し、10月から供用を開始した。

金城ふ頭では、ふ頭再編改良事業として、新規の耐震強化岸壁整備工事を平成30年12月から国が実施している。昨年度から岸壁のケーソン製作に着手し、今年度、全9函のうち2函の据付工事が完了した。

名古屋港管理組合は、背後にモータープールを確保するため金城ふ頭の一部16.3ヘクタールを埋め立てる計画で、岸壁整備に併せて護岸工事を進めている。

引き続き、事業採択を受けた飛島・金城のふ頭再編改良事業について、着実に事業進捗を図っていく。

さらに、名古屋環状2号線（名古屋西～飛島）が今年度開通する見通しで、本港と内陸部との更に円滑な物流ネットワーク形成が期待される。

大規模災害に備え、ハード・ソフト対策を強化

～ 港湾施設への防護柵の設置、関係者との協定締結等 ～

名古屋港管理組合では、大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくりの実現に向け、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策を計画的に遂行している。

ハード対策としては、台風襲来時の高潮対策等として、完成自動車の流出を防ぐため、モータープール外周部に防護柵を昨年度設置したのに続き、木材の海上への流出を防ぐため、陸上貯木場外周部への防護柵の設置を今年度の完了を目途に進めている。

また、地震・津波対策として、令和3年度の完了を目途に堀川口防潮水門の耐震補強工事を実施しており、併せて防潮壁の地震・津波対策や金城ふ頭・飛島ふ頭の耐震強化岸壁の整備を進めている。

ソフト対策としては、台風の接近に際し、想定される標準的な防災行動を時系列的に整理した「フェーズ別高潮・暴風対応計画」について、コンテナ及び完成自動車に係る計画を今年3月に取りまとめ、引き続き木材に係る計画の拡充に取り組んでいる。また、今年6月には、高潮等の発生時に、荷さばき地に蔵置する完成自動車を緊急的に名古屋市営の立体駐車場に移動できるよう、名古屋市、利用者及び本組合で協定を締結した。

ヒアリ対策への継続した取組

～ 1000 個体以上のヒアリ・卵を確認、徹底した駆除を行い定着防止対策を実施 ～

名古屋港では、特定外来生物であるヒアリは平成 29 年 6 月の初確認以降、11 事例確認されている。

名古屋港管理組合は、初確認以降、コンテナターミナル外周部は 2 カ月に 1 回、過去の確認場所付近の臨港道路及び臨港緑地は 3 カ月に 1 回の調査を継続的に行っている。また、環境省においても、年 2 回全国港湾調査を実施し、コンテナターミナル内を調査している。

本年 9 月に本組合が実施した調査において、飛島ふ頭の臨港道路（歩道）沿いで 300 個体以上、その隣接する事業者敷地内において 400 個体以上のヒアリが確認された。これを受けて、環境省、愛知県及び本組合が行った緊急調査では、一定規模のコロニーの形成とともに、有翅女王アリ数十個体以上を含む、1,000 個体以上のヒアリ及び卵やサナギが確認された。確認された箇所については、集中的に殺虫液剤等を散布し、徹底した駆除を行った。

そのような中、ヒアリが確認された飛島ふ頭を笹川博義環境副大臣が視察に訪れ、港湾関係者と意見交換を行った。

また、10 月には環境省が実施した全国港湾調査において飛島ふ頭のコンテナヤードの舗装面で約 70 個体のヒアリを確認し、継続して駆除を行った。

今後も引き続き、環境省及び愛知県と連携し、継続して定着防止のため必要な対策を行うとともに、水際での早期発見と防除に取り組んでいく。

名古屋港水族館、臨時休館を経て再スタート

～ 支援を募る取組、同館生まれのアカウミガメから子ガメ誕生 ～

名古屋港水族館は、新型コロナウイルス感染症の影響により、3月2日から5月24日まで臨時休館した。

同館は入口にサーモグラフィカメラを設置しての検温や、各所消毒液を設置する等様々な感染拡大防止対策を講じた上で営業を再開した。営業再開後の入館者数は、11月末までの前年同期比で48%減となり厳しい状況となっている。

こうした中、生き物への興味や理解を深めてもらい、支援を募るクラウドファンディングを実施したところ、1,400万円を超える支援があり、また、館内の手軽で楽しく生き物への支援ができる募金コーナーでは、100万円以上の支援をいただいている。

一方、飼育生物については、5月に同館生まれのアカウミガメが館内の人工砂浜で産卵、ふ化に成功し、開館以来初の快挙となった。

また、民間企業との協賛により新たにホームページ上で飼育生物のライブ映像（9か所）の24時間配信を行うなど、Webを通じた情報発信に努めている。

同館では来館者が安心して観覧できるよう、徹底した三密対策を引き続き実施していく。

国内クルーズ船 11 か月ぶり入港再開

～ コロナ対策徹底、ガーデンふ頭屋根付き通路完成 ～

名古屋港へのクルーズ船の入港は、感染症の影響により昨年12月以来途絶えていたが、11か月ぶりに国内クルーズ船の寄港が再開された。

名古屋港管理組合では、国等より発表された港湾のガイドラインなどを基に「名古屋港におけるクルーズ船受入の際の感染拡大予防マニュアル」を策定し、クルーズ船社や関係機関と連携し、万全な受入態勢を整えての再開となった。今後は、国際的な人の往来の再開、外国のクルーズ船の運航の再開が見通せない中、寄港数が以前の状態まで回復するには時間がかかると思われるが、これからも安全・安心なクルーズ船の受入を進めていく。

クルーズ船誘致に向けた取組としては、クルーズ船の受入環境改善のため、8月にガーデンふ頭3号岸壁背後に乗客の利便性向上を目的とした屋根付き通路が完成した。

海の日名古屋みなと祭、花火大会含め初めて全行事を中止

～ 対策を講じ徐々にイベント等を実施 ～

本年の「海の日名古屋みなと祭」(昨年度来場者数:約34万人)については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、来場者や地域住民の健康と安全面を最優先に考え、9月に予定していた花火大会をはじめ全ての行事(筏師一本乗り大会、総おどり、パレード等)の開催を中止した。戦後の復興祭として、昭和21年(1946年)に始まって以来、全ての行事の中止は初めて。このような中、地域とともに歩み続けてきた「海の日名古屋みなと祭」の歴史を幅広い層に知ってもらうため、写真とともにホームページ及びSNSで紹介した。

その後は、感染症対策を講じ、10月に「名港水上芸術花火2020」、12月に「ISOGAI 花火劇場 in 名古屋港」が民間主催により開催された。また、11月27日から12月25日までの期間において「名古屋港 illumination 2020 ～Over the Rainbow～」を実施し、にぎわいを創出している。

また、名古屋港管理組合初の取組として、名古屋港の魅力が伝わる写真をInstagramに投稿してもらう「名古屋港 Instagram フォトコンテスト2020」を9月から実施。

さらに、名古屋港を見学する企画「みなと体験ツアー」を10月から11月まで全4回開催した。今年は従来の港務艇から見学し名古屋港を全般的に紹介する「一般コース」に加えて、名古屋港の環境や景観を中心に紹介する「環境・景観コース」、また、名古屋港の防災対策を紹介する「防災コース」を設定し、参加者がコースを選択できるツアーとした。開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、募集人数を20名に縮小し、その他感染症対策を講じて開催した。

ロサンゼルス港と覚書締結

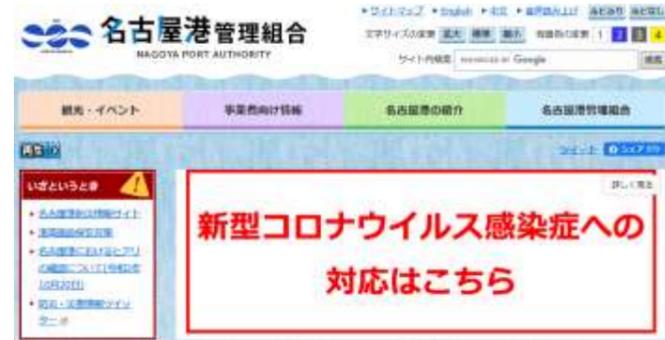
～ 姉妹港提携60周年を機に、両港で協力関係を確認 ～

名古屋港は、1959年に米国ロサンゼルス港と姉妹港提携を行って以来、友好を深め、人的交流や情報・技術の交換などを通して相互の繁栄と貿易の発展を図ってきた。昨年姉妹港提携60周年を迎えたことを機に、両港における協力関係を進めることを確認し、2月に覚書を締結した。

この覚書は、ロサンゼルス港と本港における環境面の持続可能性と業務効率という共通の優先事項を改善・向上させるため、協力、情報共有、最良の慣行（ベストプラクティス）の促進を図ることを目的としたものであり、ゼロエミッションの取組や情報共有のためのプラットフォームの開発及び配備について情報交換を行っている。

【総合】

新型コロナウイルス感染症への対応



名古屋港管理組合ホームページ

【物流関連】

総取扱貨物量19年連続日本一へ



港湾物流情報の電子化の取組と
水素等の次世代エネルギー施策の議論スタート



NUTS/名古屋港統一ターミナルシステム

コンテナ及び完成自動車取扱機能の強化



金城ふ頭ケーソン据付工事

【防災・危機管理関連】

大規模災害に備え、ハード・ソフト対策を強化



堀川口防潮水門(令和2年1月撮影)

ヒアリ対策への継続した取組



殺虫液剤等を散布

【親しまれる港づくり関連】

名古屋港水族館、臨時休館を経て再スタート



サーモグラフィーカメラを設置

国内クルーズ船11か月ぶり入港再開



受入態勢を整え、11月にクルーズ船「にっぽん丸」が入港

海の日名古屋みなと祭、花火大会含め初めて全行事を中止



海の日名古屋みなと祭ホームページ

【国際交流関連】

ロサンゼルス港と覚書締結



※各写真はデータでも提供可能です。

kouhou@union.nagoyako.lg.jp

名古屋港管理組合広報・にぎわい振興室まで
ご連絡ください。